

神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
140

【神秘学ポエジー～風遊戯 第 280集】 photo ヴァージョン

photopos 3476-3500

《2024.3.15～ 2024.4.8》

神秘学遊戯団

わたしには
わたしがだれなのか
わからない

じぶんの顔さえも
じぶんでは見えないから

あなたの見る
わたしの顔が
わたしの顔になる

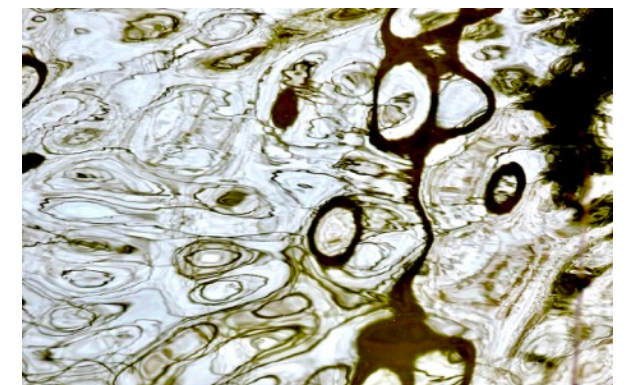
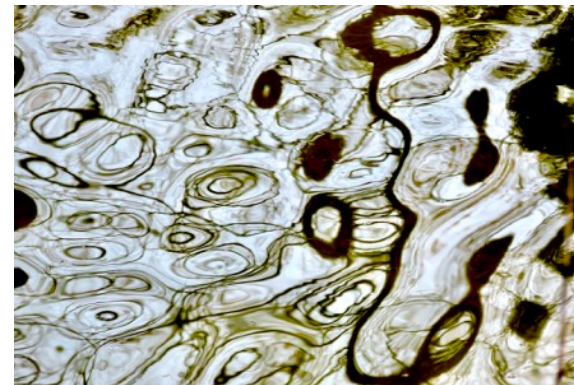
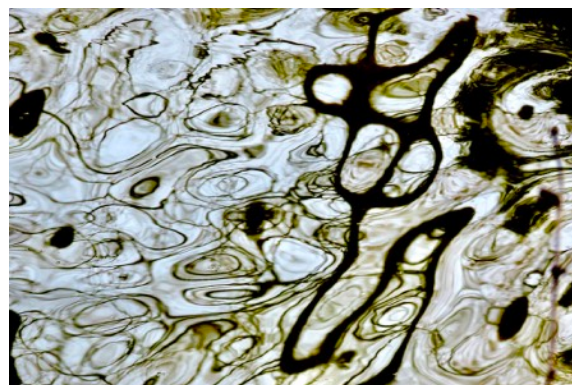
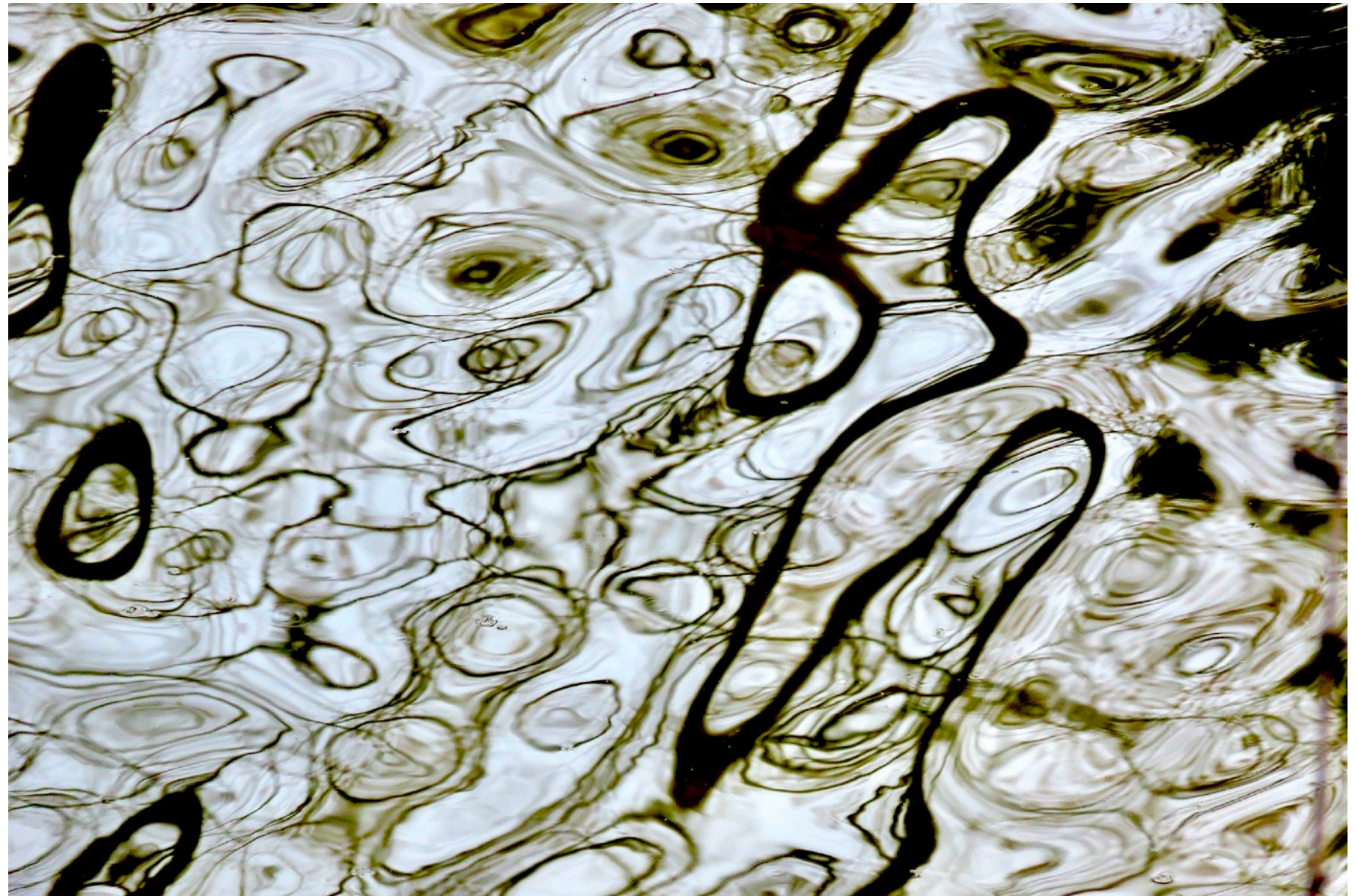
わたしのなかで
わたしを見ている
永遠に遠いあなた…

顔が
変わっても
わたしは
わたしだろうか

心が
変わっても
わたしは
わたしだろうか

仮面を
付け替えるように
わたしは
付け替えられるだろうか

仮面の下には
どんな顔が潜んでいるのか
わたしには
わからないままに



＊愛媛県総合運動公園にて

声を
きかせて

まだ
言葉にはならない
その声を

あなたの
声の響きで
わたしを紡いで

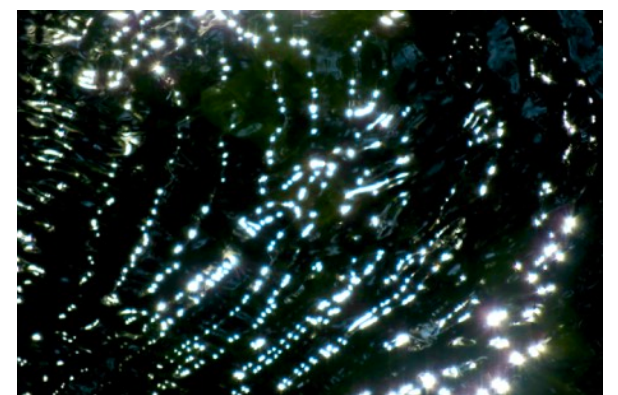
そこから
ほんとうの
言葉の織物が生まれるように

歌を
きかせて

まだ
意味にはならない
その歌を

あなたの
歌の響きで
わたしをふるわせて

そこから
ほんとうの
意味の織物が生まれるように



☆photopos-3478 2024.3.17

夢を見ているのか
夢から覚めているのか

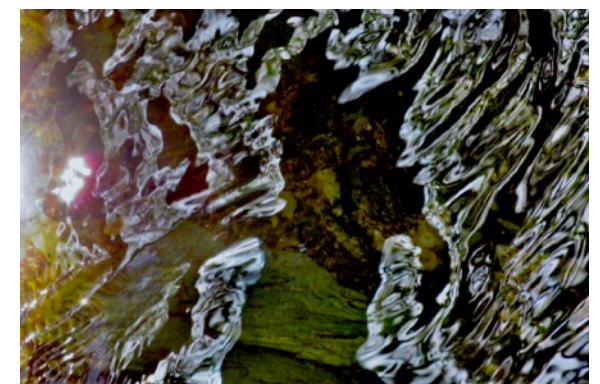
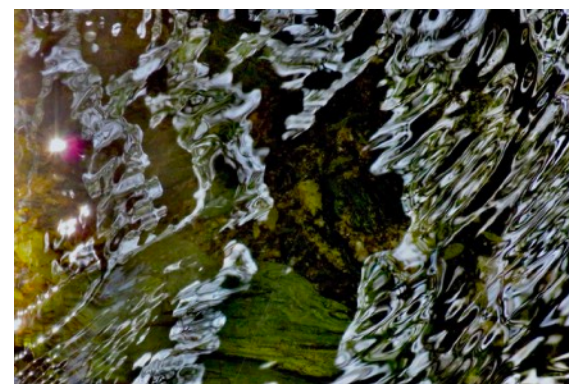
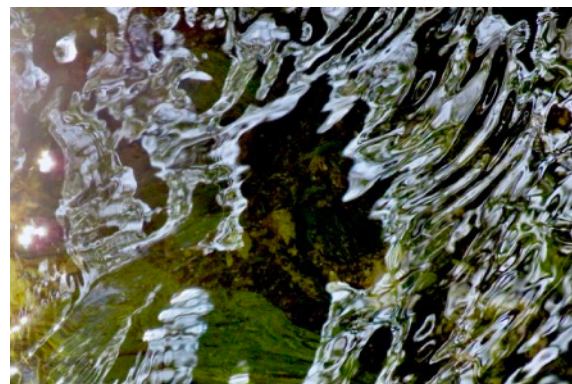
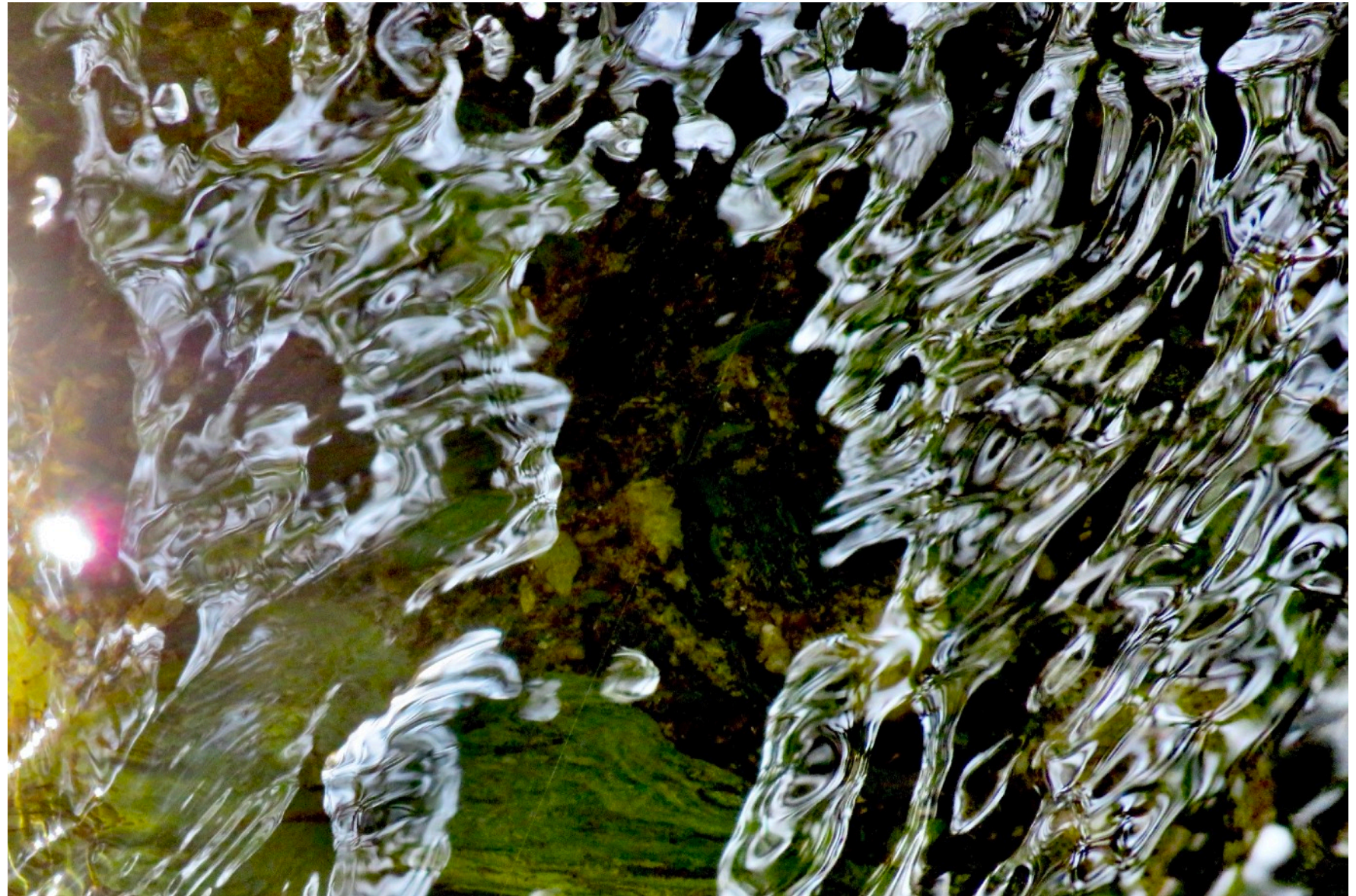
世界は
夢のまた夢

夢から覚めて
夢をみて
その夢から覚めて
また夢をみて

私は
私を夢みているのか
夢みる私から覚めているのか

私は
夢のまた夢

私から覚めて
私の夢をみて
その夢から覚めて
また私の夢をみて



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

じぶんはなぜこうなのか
そうせざるをえないのか

じぶんのことは
じぶんがいちばん
よく知っているはずなのに

じぶんのことなど
皆目わからずにいる

あなたはこうなのだ
そう決めてもらえれば
楽なのかもしれないが
そういうわけにもいかない

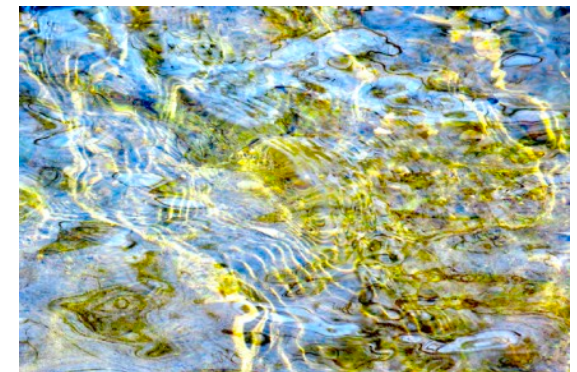
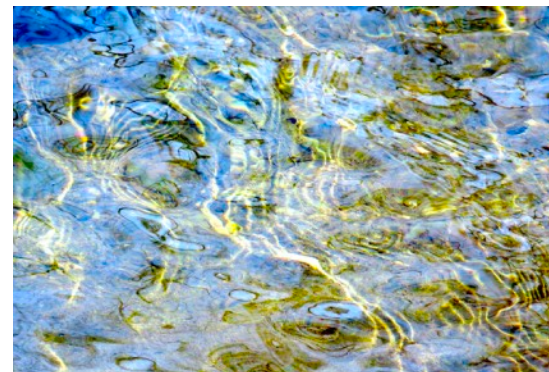
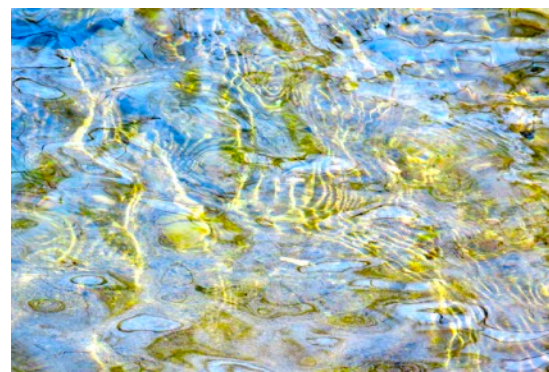
なにがしたいのか
なにがほしいのか

とりあえず
言葉にしてみるのだが
それらは
どこか薄ら寒く響く

流されるのもいいが
行く先が心配だ
かといって
自分では泳いでいけそうもないから

なにもわからないところにいて
なにも決めないままに
じぶんにあらわれてくるものを

ひとつひとつ
ていねいに見てみるところから
はじめてみるしかなさそうだ



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

閉じてしまった
心の扉よ

やがて
閉じたことさえ
忘れてしまった
心の扉よ

どこかでいつか
封印が解かれ
扉の鍵が
見つかりますように

奏でることを
やめてしまった
心の竖琴よ

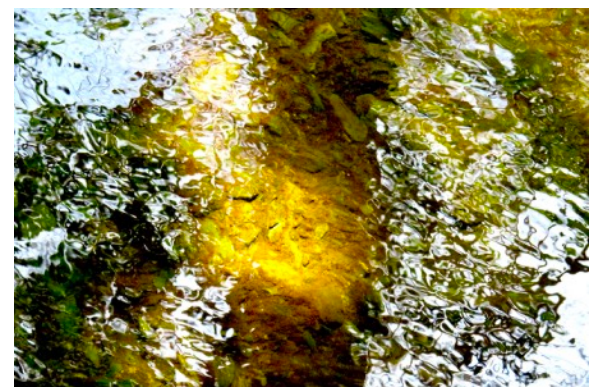
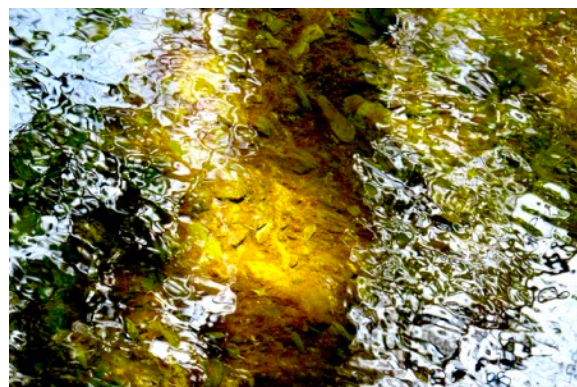
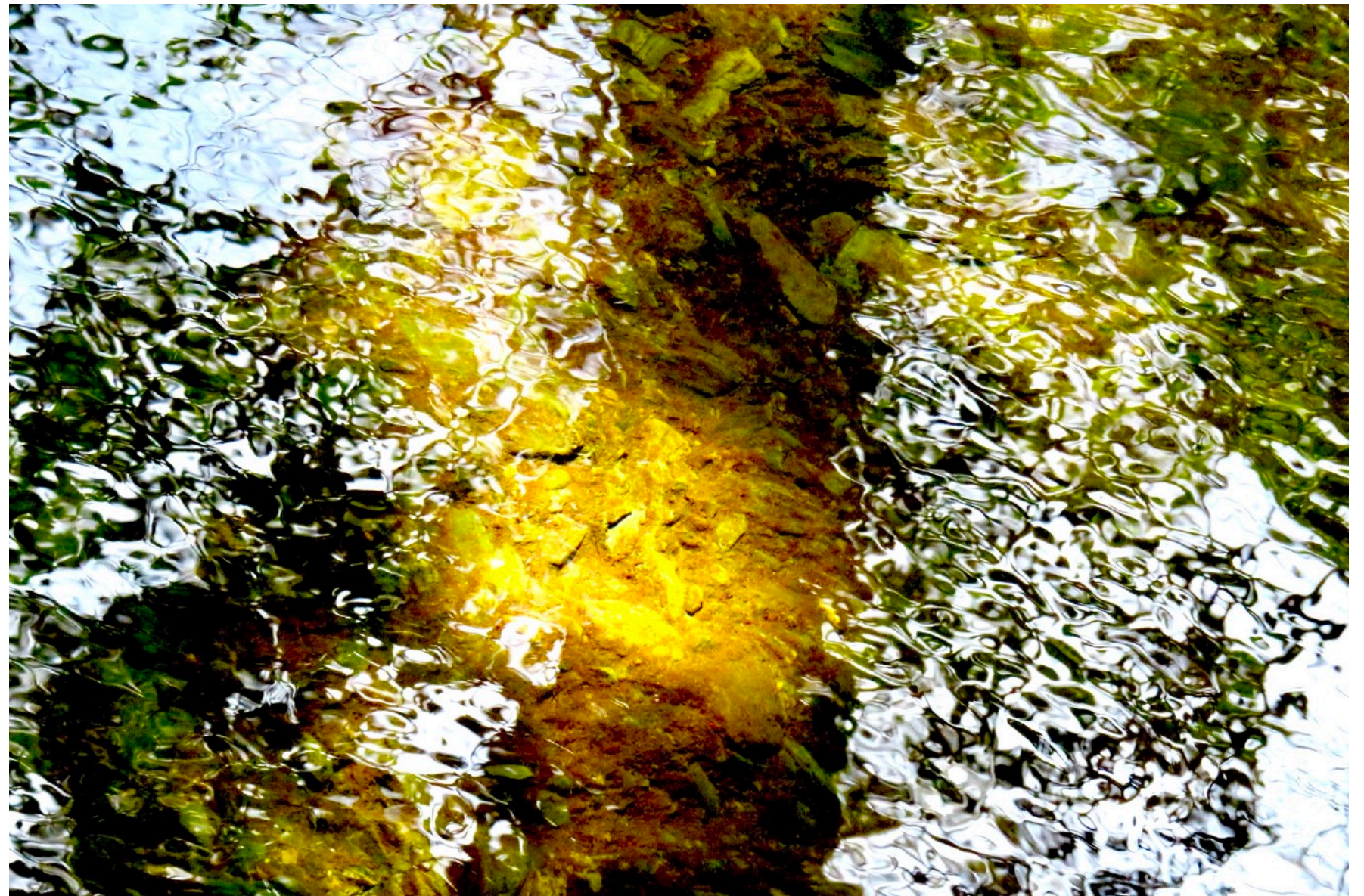
やがて
奏でていたことさえ
忘れてしまった
心の竖琴よ

どこかでいつか
封印が解かれ
竖琴の響きが
甦りますように

私の中に蒔いた
心の種よ

やがて
蒔いたことさえ
忘れてしまった
心の種よ

どこかでいつか
封印が解かれ
種が芽吹き
育ちはじめますように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

言葉とは

まなざしで
心を描くための
絵筆だから

美しき色で
歌われなければならない

心はどんな色で
歌われるだろうか

証明とは

世界をたしかに
結び合わせるための
トートロジーだから

美しき形の
器とならなければならない

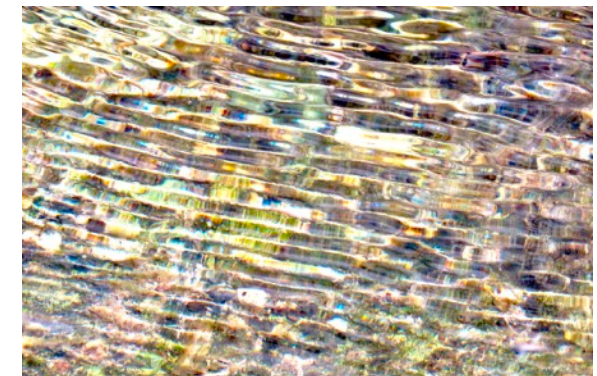
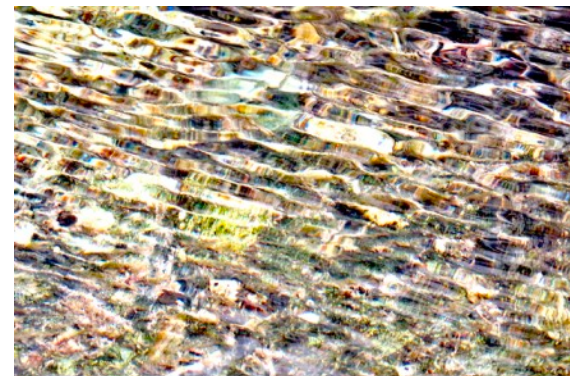
その器には
なにが盛られるだろうか

対話とは

論理を豊かに
照らし出すための
合わせ鏡だから

美しき螺旋で
むすび合わさなければならない

その螺旋は
なにを描くだろうか



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

おのずと
生まれでた
かたちは
生きているけれど

故意に
つくられた
かたちは
死んでいる

わたしたちは
おのずと生まれながら
故意につくられたかたちのなかで
死んだように生かされている

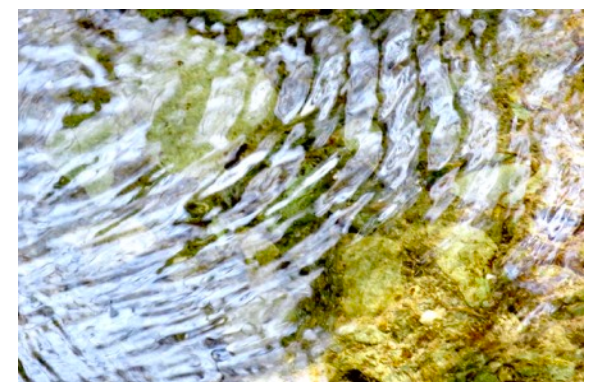
かたちに
いのちが
吹きこまれますように

おのずと
生まれでた
ことばは
生きているけれど

故意に
つくられた
ことばは
死んでいる

わたしたちは
おのずと生まれることばを捨て
故意につくられたことばに
死んだように使われている

ことばに
いのちが
吹きこまれますように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

みる
きく
かぐ
あじわう
ふれる
おもう

それらは
わたしたちにとって
世界への窓となっているが

窓の外の世界は
言葉という魔法で
さまざまに
その形が変わっていく

色の言葉を得ると
世界には色が生まれ

数の言葉を得ると
世界には数が生まれ

時間の言葉を得ると
世界には時間が生まれるように

光の言葉を得ると
世界に光が生まれ

愛の言葉を得ると
世界に愛が生まれる

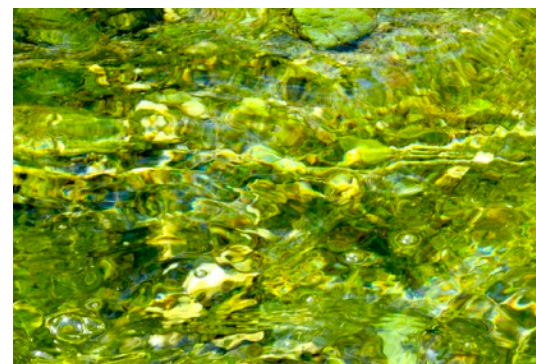
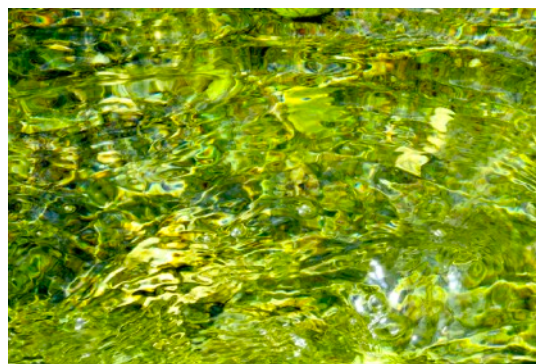
世界を閉ざすのは簡単だ
言葉を禁じればいい

禁じられた言葉の窓は閉ざされ
その世界は封印される

封印された
無数の言葉が
世界には隠されている

その秘密を知り
封印を解いていかねばならない

ポエジーは
その鍵となる



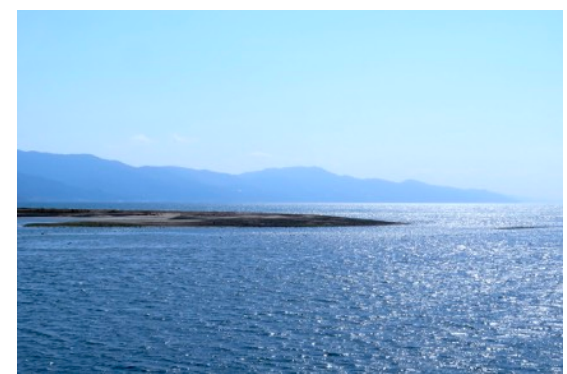
＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

はるかに
空を渡る鳥に
境はない

ひととき
休息を得ても
翼は
空を求め
季節をめぐる

はるかに
時空を渡る人に
境はない

ひととき
生を得ても
魂は
新たな生を求め
時空をめぐる



＊愛媛県松山市・重信川河口にて

わたしを
見ている
もうひとりの
わたしがいて

わたしに
語りかけ
ともに語りあう

そしてまた
もうひとりの
わたしを
見ている
さらにもうひとりの
わたしがいて

語りかけ
ともに語りあう

それは
多次元の
合わせ鏡のように
どこまでつづいていくのか

それとも
メビウスの環のように
どこかで結ばれあっているのか

ときにわたしは
そんなわたしたちの連鎖から
自由になろうと
そこから離れたくもなるのだが



*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

矛盾は
はじめからあったのか
それとも
ひとがつくったのか

わたしたちは
矛盾のなかで生きている

ひとがつくりだしたもののならば
ひとはそれを越えてゆけるはず

矛盾を
矛盾のままで
終わらせないように

世界の平和と
じぶんの平和を
むすぶことはできないか

ひとのことで
じぶんのことを
むすぶことはできないか

知ることと
愛することを
むすぶことはできないか

考えることと
行うことを
むすぶことはできないか

矛盾という幻の源を
見たくはないか

その地平の先で見えてくるのは
どんな景色だろう



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3487 2024.3.26

遠くをみる

なにもしない

なにも考えない

じぶんをひろげる

からっぽになる

時を忘れる

ことばを忘れる

じぶんを忘れる

忘れることで

思いだす

彼方の光

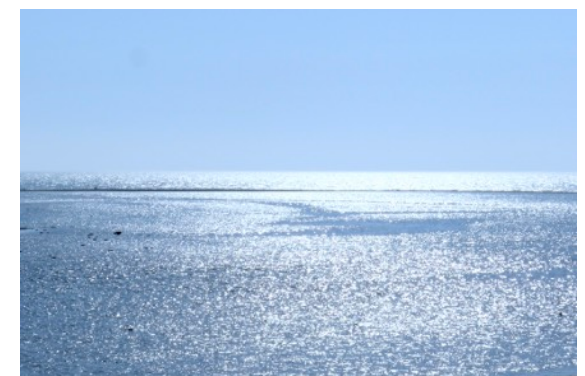
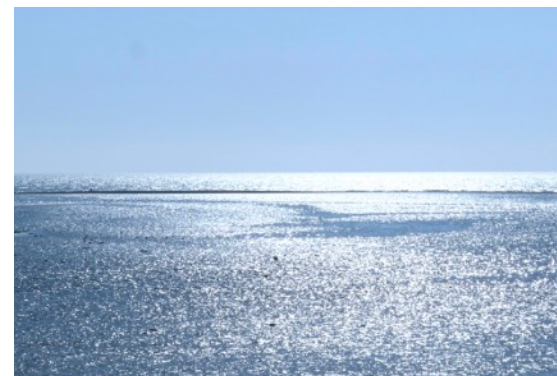
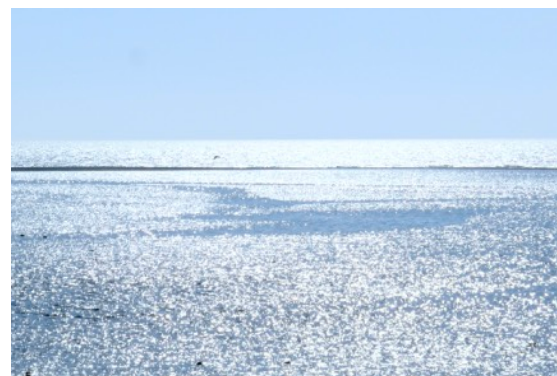
あるいは

いまここという

永遠の戯れ

謎のようにあらわれる

世界の秘密



＊愛媛県松山市・重信川河口にて

ことばには
形がある

形は魔術

おなじことばも
使い手しだいで
魔力は変わる

ことばには
裏がある

裏は見えないけれど

表では
見えないものが
働きかけている

ことばには
論理がある

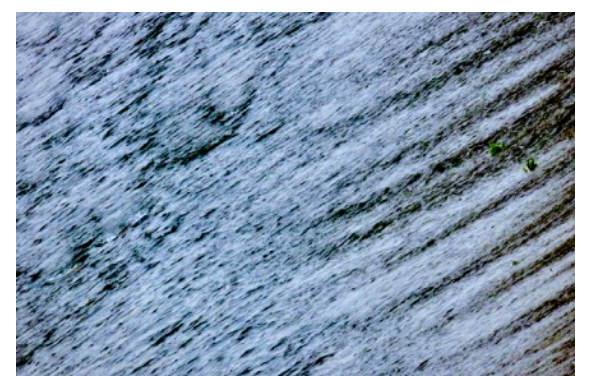
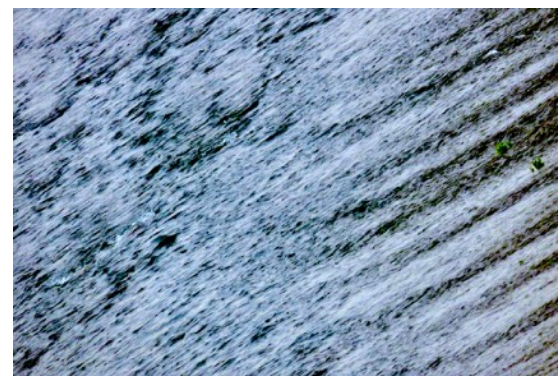
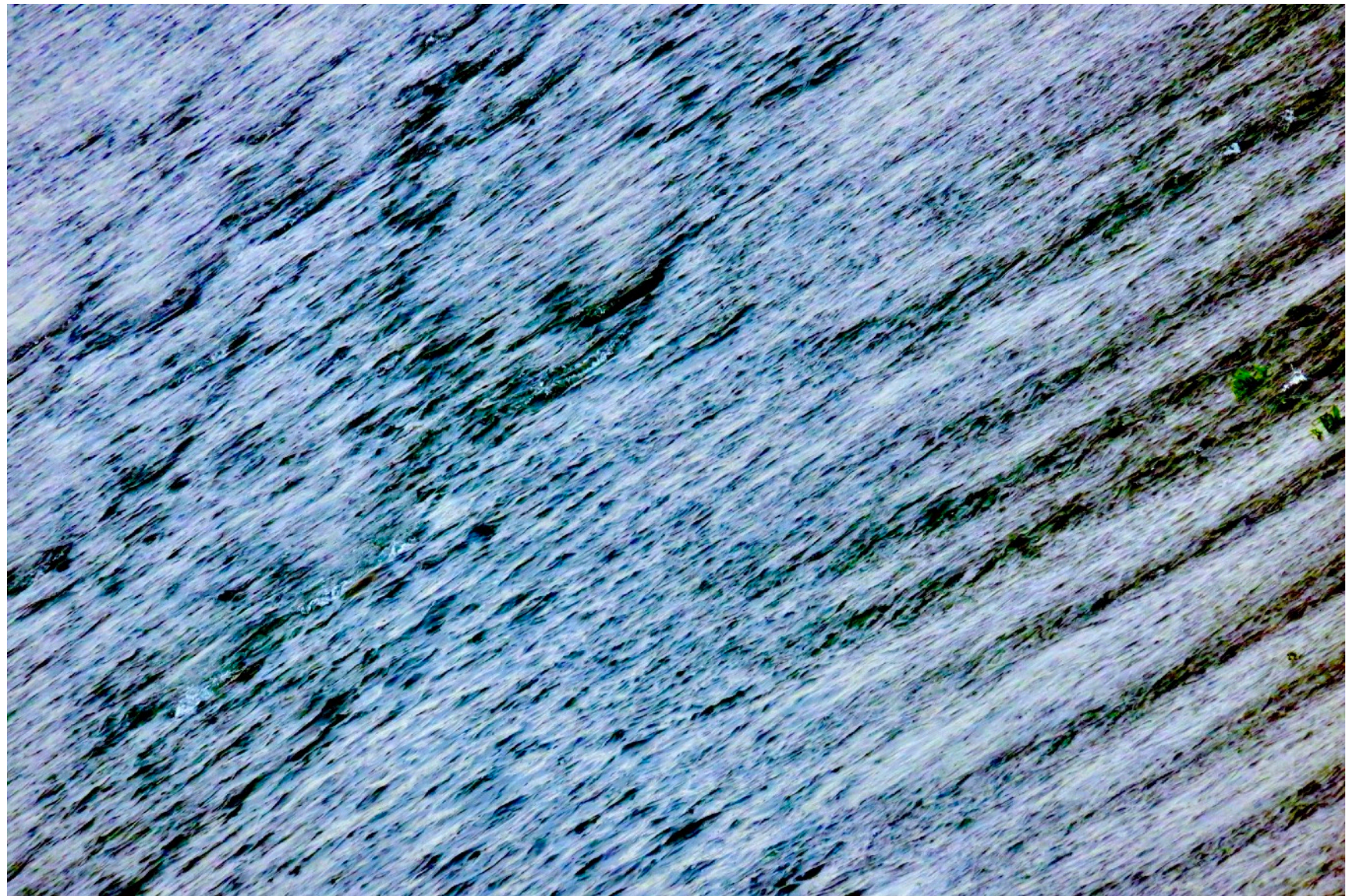
論理に縛られると

論理を論理にしている
その外の力から
自由になれなくなる

ことばには
光と闇がある

善も
時機を外れると
悪ともなるように

ことばは
光ともなり
闇ともなる



＊愛媛県松山市・重信川の土手にて

ひとのため
は
どこから
くるのだろう

ひとのため
は
ひとのため
ばかりじゃなさそうだ

ひとに
てらして
じぶんを
みようというのかもしれない

そこに
うつされるのは
じぶんのほんとうだろうか
それとも
じぶんというなぞだろうか

じぶんのため
は
どこから
くるのだろう

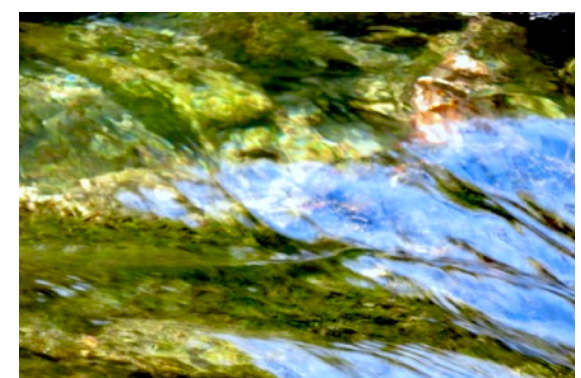
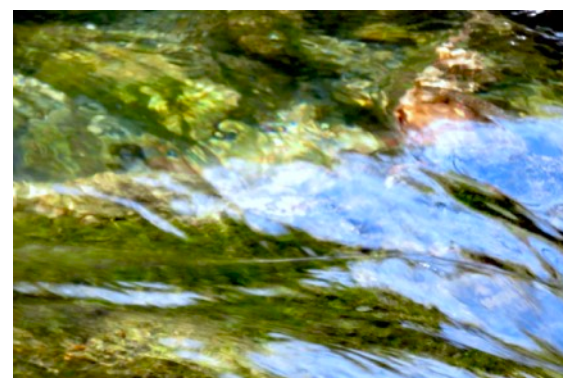
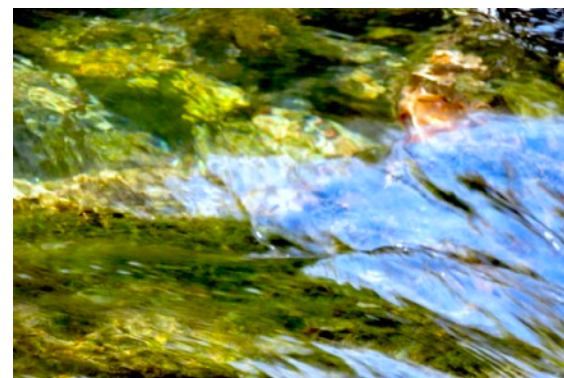
じぶんのため
は
ただじぶんのため
ばかりじゃなさそうだ

じぶんのため
といいながら
そこには
どこか
ひとのかおが
みえかくれしてはいないか

それはだれだろう
だれにむかって
じぶんだ
といたいのだろう

じぶんのため
は
どこか
せつない

でぐちのない
めいろのようだ



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

闇がある

光を見つけるためだ

光の方へ・・・

光を生きはじめ
再び闇を見つめる

闇は
光の不在なのか
光の錯誤なのか

謎は深まっていく

苦しみがある

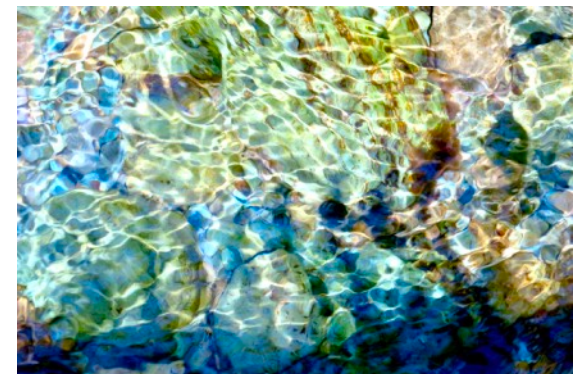
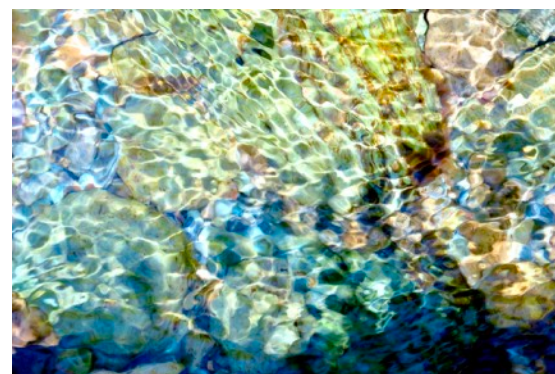
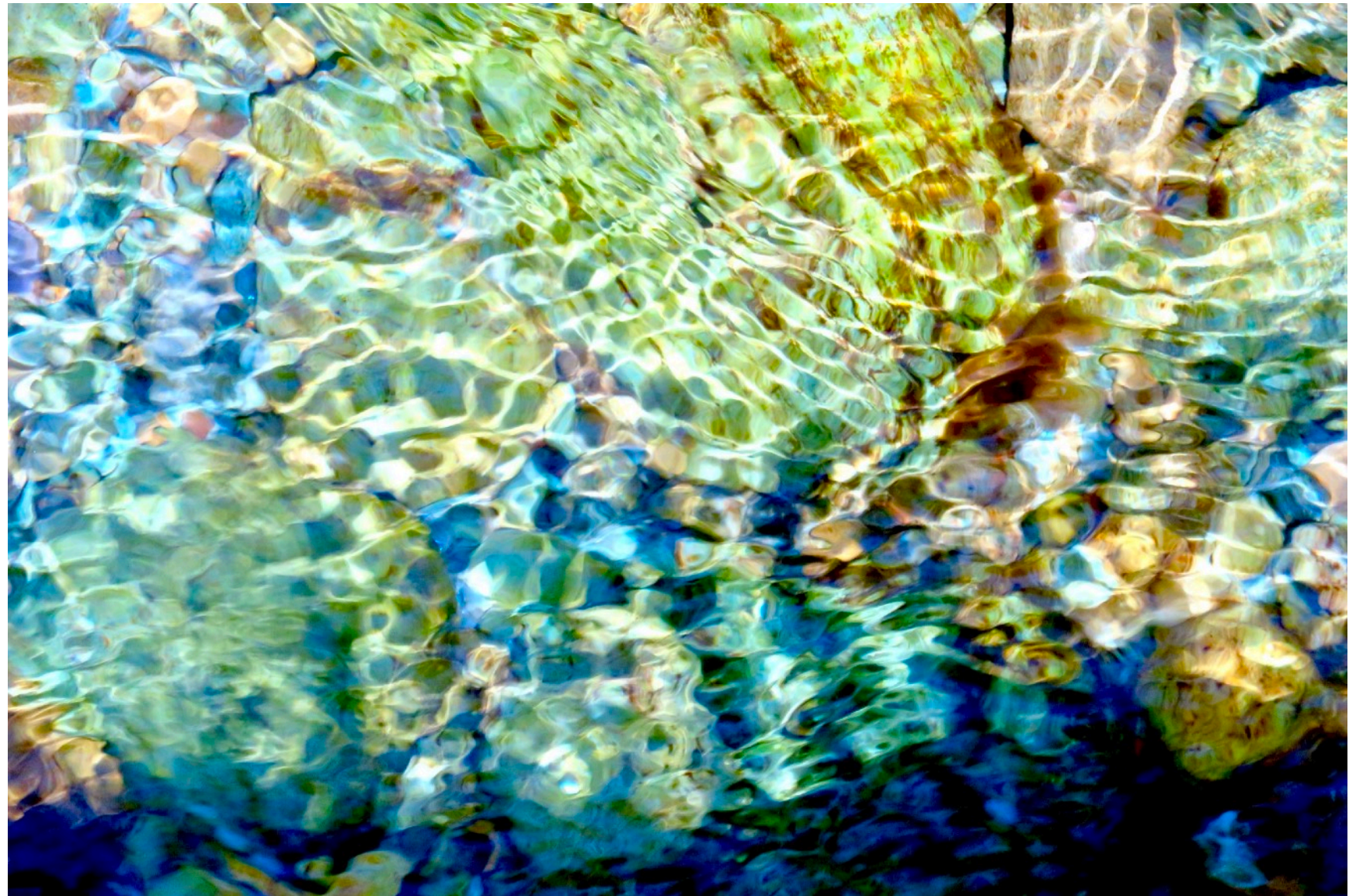
喜びを見つけるためだ

喜びの方へ・・・

喜びを生きはじめ
再び苦しみを見つめる

苦しみは
喜びの不在なのか
喜びの錯誤なのか

謎は深まっていく



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

勝ち負けに
こだわるのも

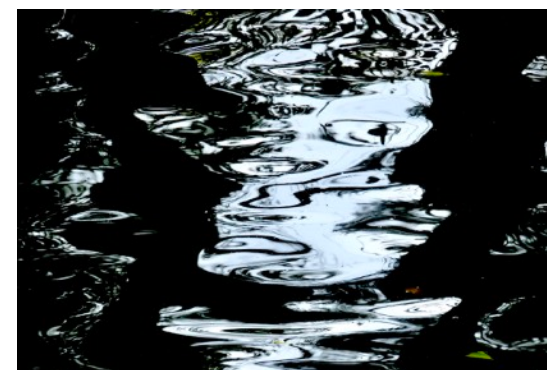
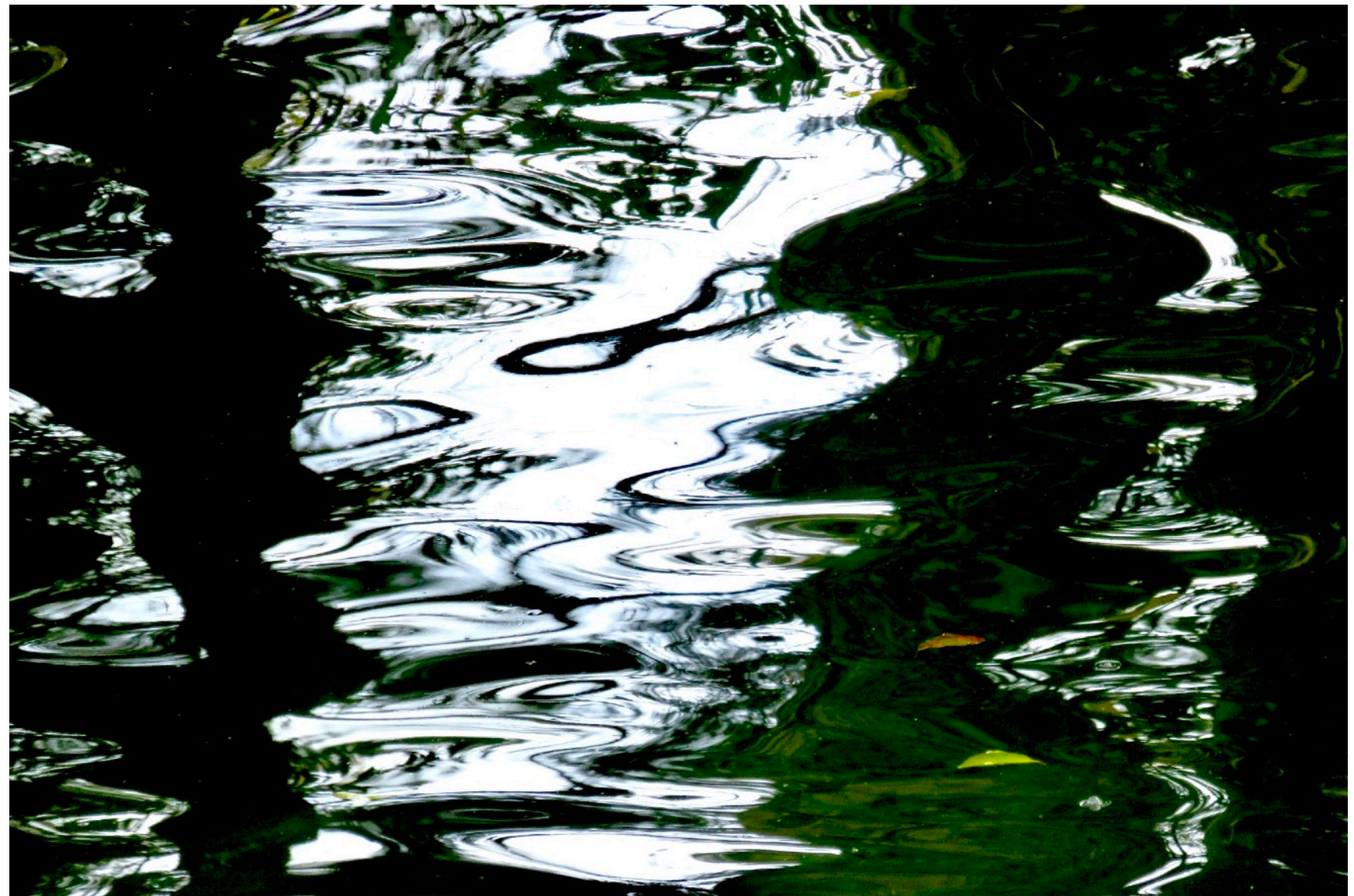
勝ち負けを
拒むのもなく

負けるが勝ち
でも
勝って負ける
でもなく

何に勝つのか
何に負けるのかに
心をたしかに向けながら

勝ち負けのうみだす
心の闇から
自由でありますように

勝ち負けとともにありながらも
勝ち負けにとらわれることなく
生きられますように



＊愛媛県総合運動公園にて

見る前に跳べ！

そのことばどおり
この世に生まれてきた

生きてみなければ
生きることはわからない

生きるのが嫌になっても
生きてみなければわからない

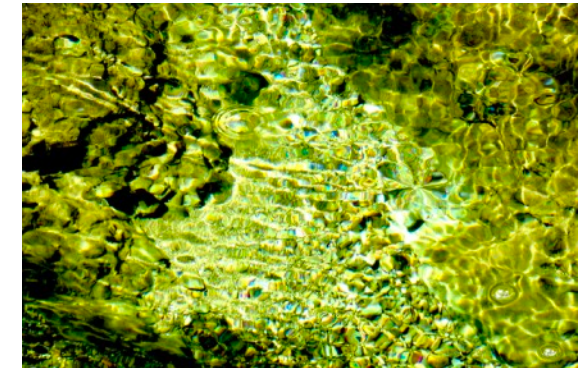
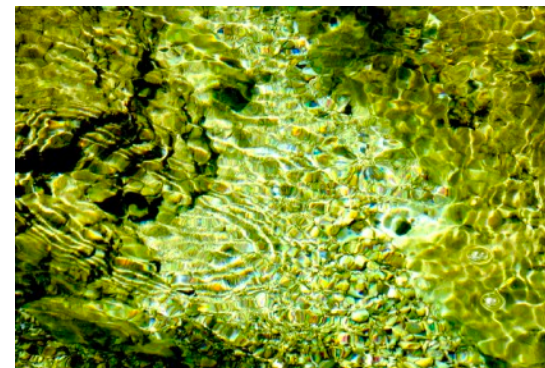
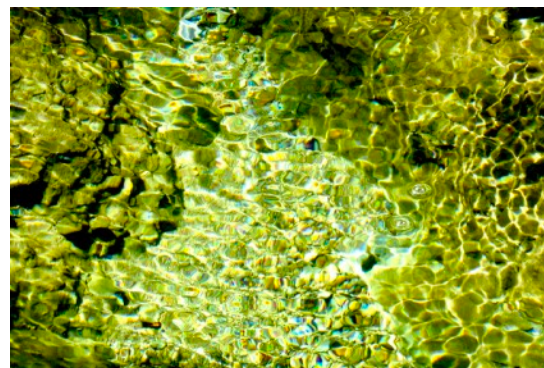
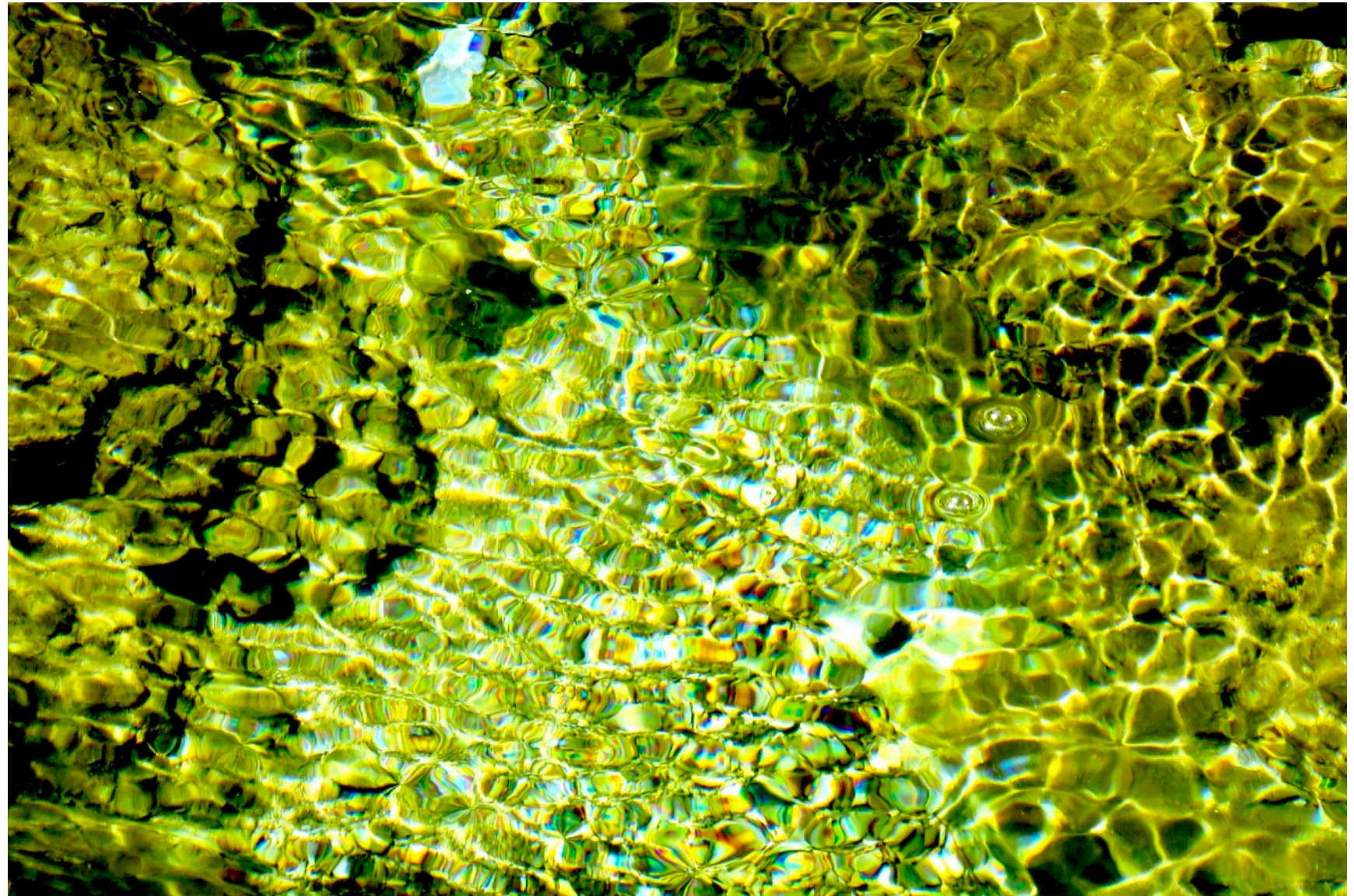
愛さなければ
愛することはわからない

愛に絶望するとしても
愛したからこそである

教える者は多いが
ほんとうにだいじなことは
習うことも
教えることもできないから

ただ生きる
ただ愛するのだ

生きることは
生きることそのもののなかに
愛することは
愛することそのもののなかにこそ
あるのだから



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

嘘から
まこともでるが
まことが
嘘にもなる

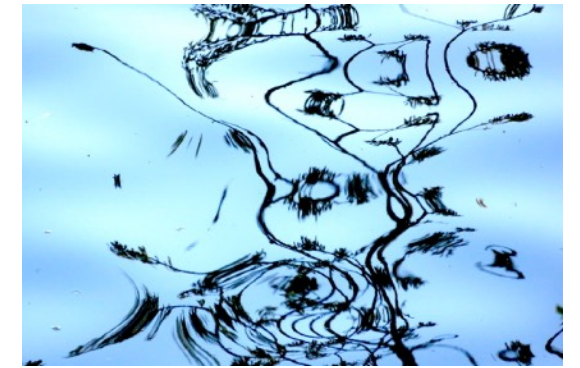
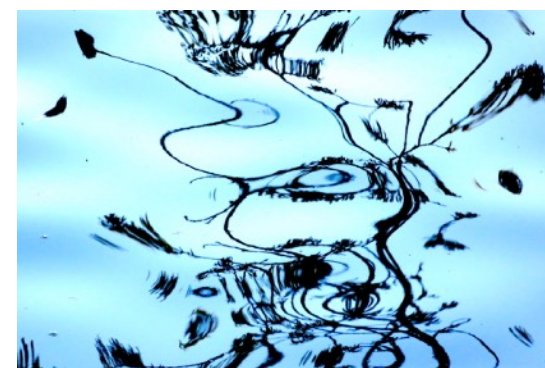
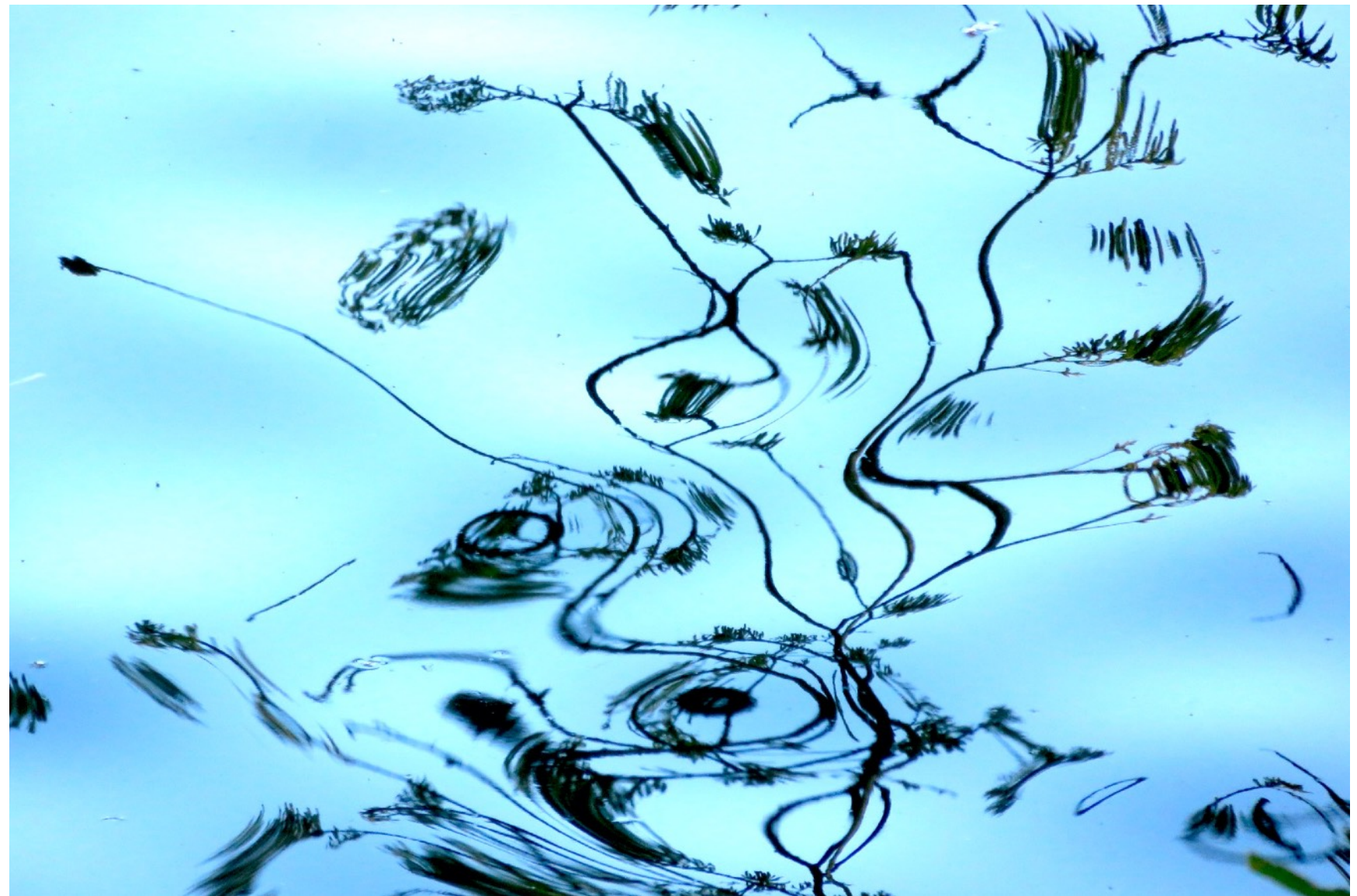
嘘かまことかよりも
嘘とまことが
つながっている根っこを
見つけるほうがよさそうだ

善のなかから
悪もうまれるが
悪のなかから
善がうまれたりもする

善か悪かよりも
善と悪が
うまれてきた根っこを
見つけるほうがよさそうだ

陰謀論から
真実もでるが
真実が
陰謀論とされたりもする

陰謀論かどうかよりも
陰謀論として
名づけられた根っこを
見つけるほうがよさそうだ



＊愛媛県総合運動公園にて

権力が
支配するのは
ひとの心

力だけで
従わせるのは
むずかしいから

じぶんから
力に従うようにと
ひとを調教する

調教のために
あるべき姿を与え
それに向かって歩ませる

心を調教すれば
支配と管理はおのずと進むのだ

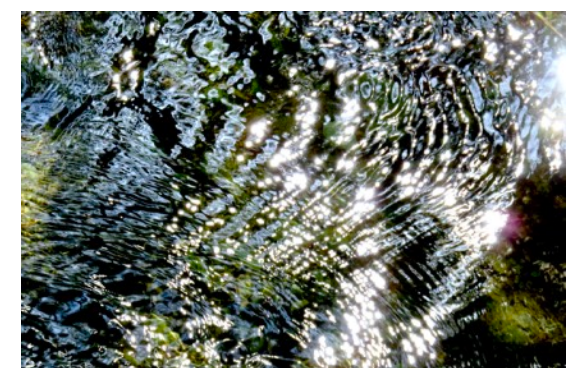
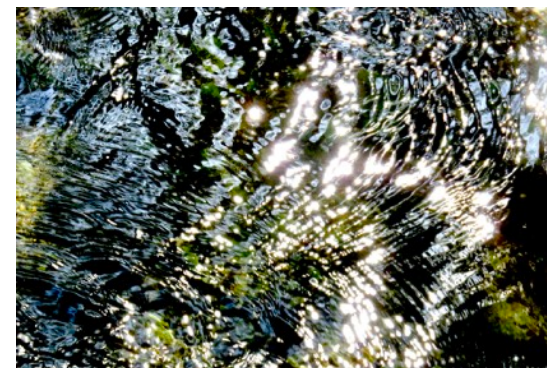
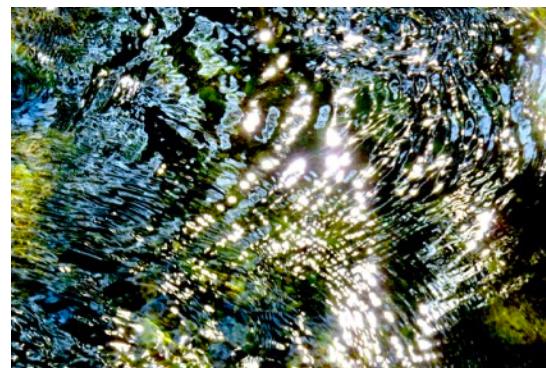
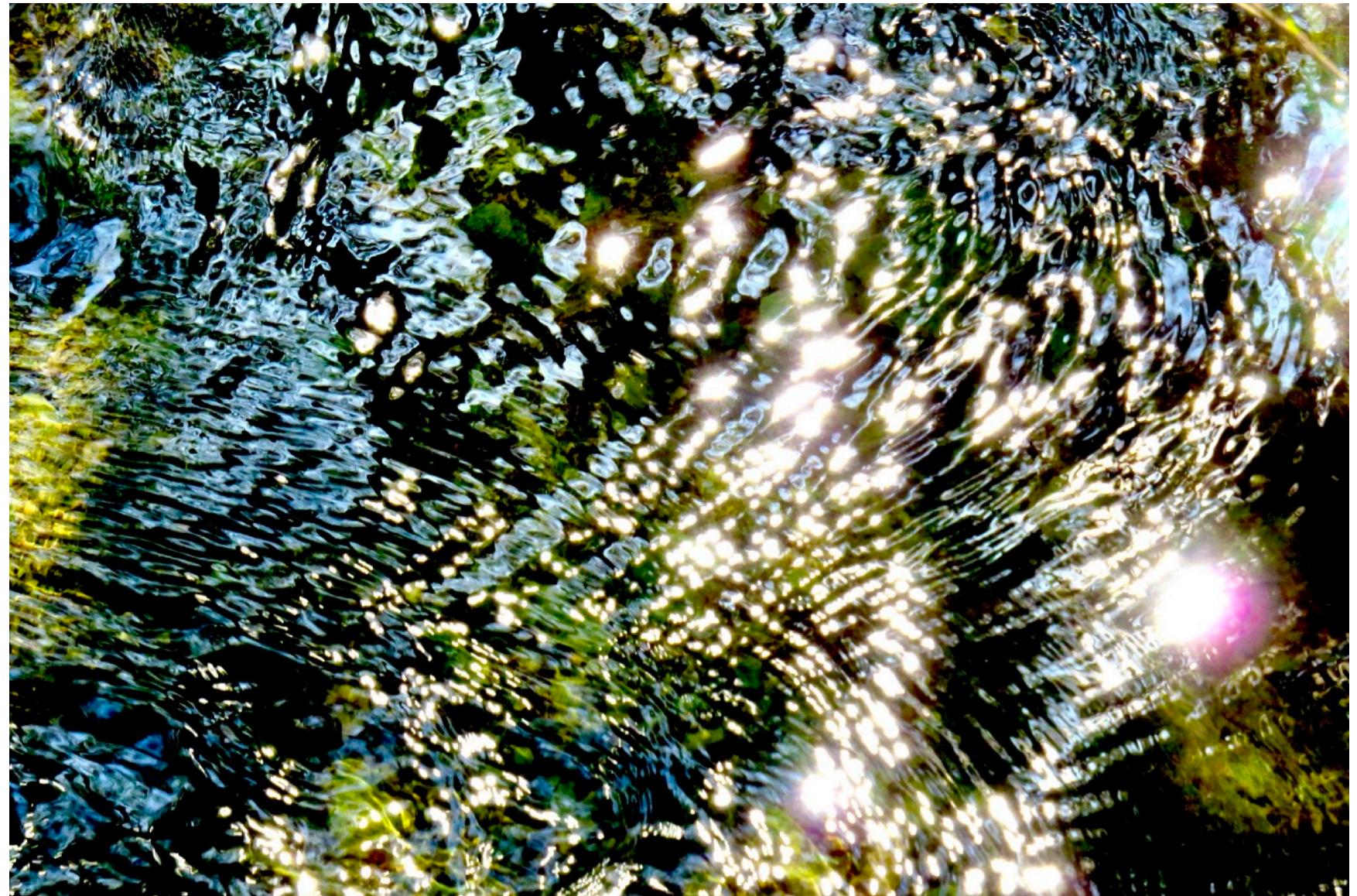
権力に抗するために
あらたな権力で立ち向かい
たとえそれが
覆されたとしても

白が黒になり
黒が白になる
そんなリバーゲームになる

世界が変わっても
世界の見方が変わらなければ
変わったことにはならない

革命は
別の方へと
向かわなければならない

ハエがハエ取り壺から
出口へと向かえるように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

前提には
前提があり
その前提には
またその前提がある

デカルトは問い
「われ思う、ゆえにわれあり」
としたが
「われ思う」という
前提さえもまた
問われなければならない

だれもが
じぶんのなかで
疑いえないとする前提にも
やはり前提があるだろう

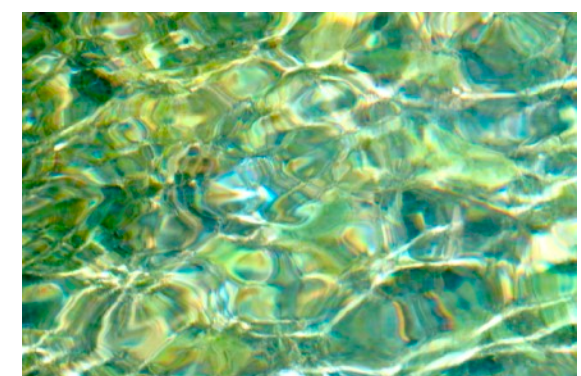
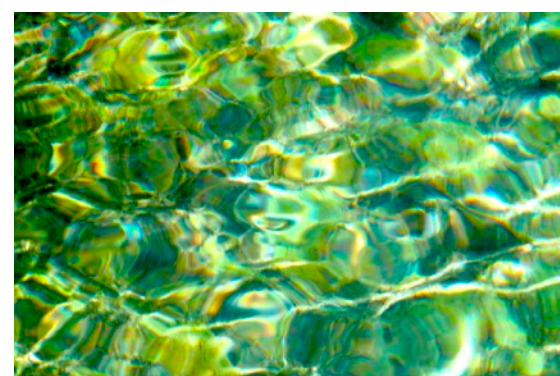
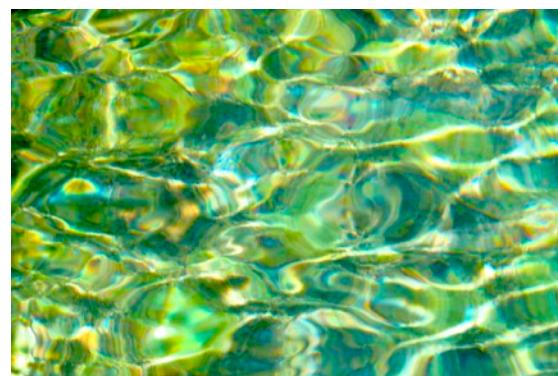
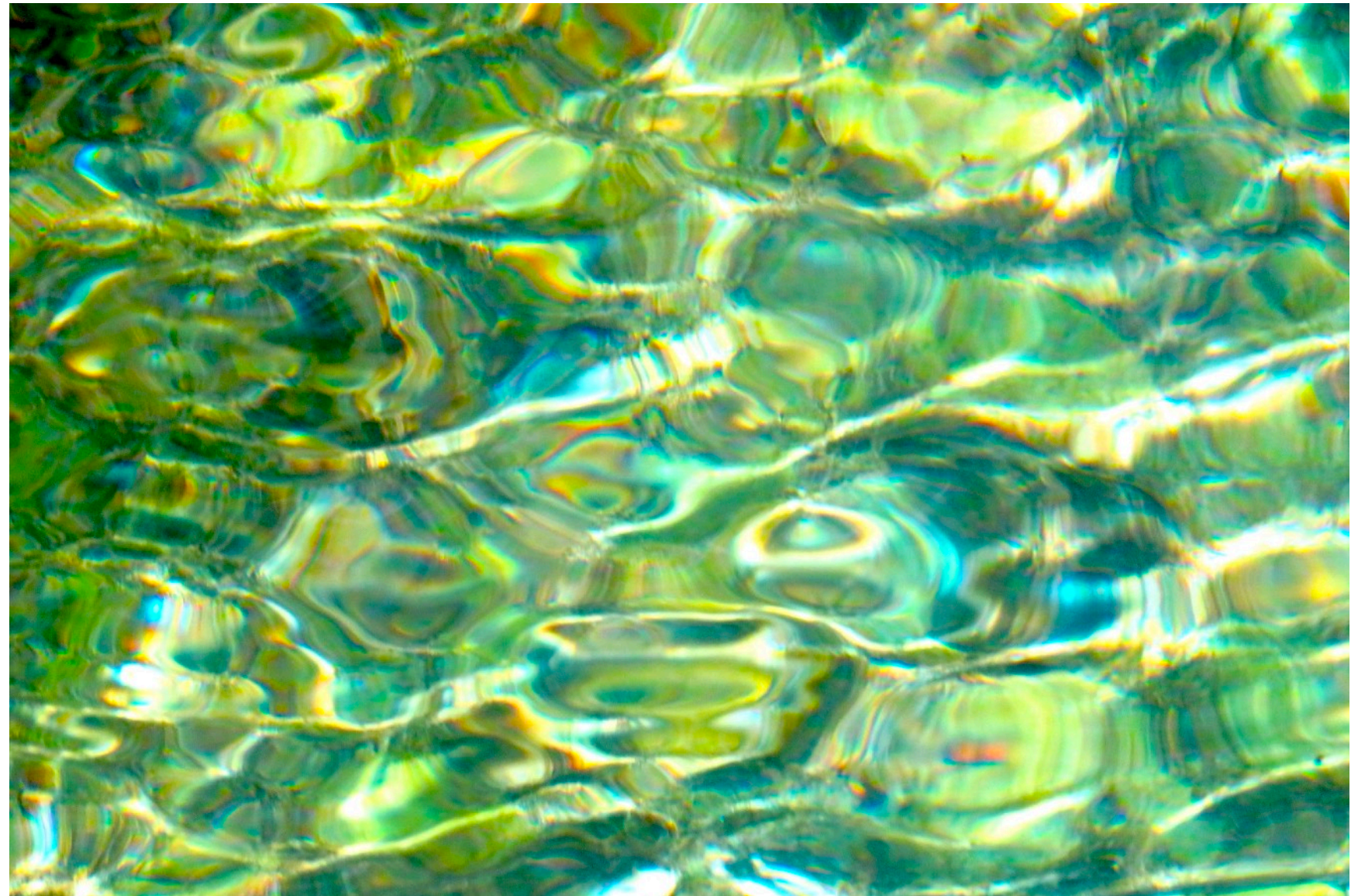
与えられた答えを
前提とすれば
生きやすいだろうが

その前提が崩れそうなとき
ひとはじぶんを
前提という
囲いのなかに棲まわせ
壊れていくじぶんを守ろうとする

西欧がながく
「無」を「0」を
拒んできた歴史があるのも
そういうわけだ

しかし壊れそうなじぶんの
前提を問いつづけることでしか
見つけることのできない源がある

その源を恐れるか
むしろその水から汲むか
魂は試されることになる



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

ひとは作る

作ること
作られ

作られたものとともに

ひとは
ひとになり
ひとを
超えてゆき

あたらしい
ひととなる

けれど
ひとは使い

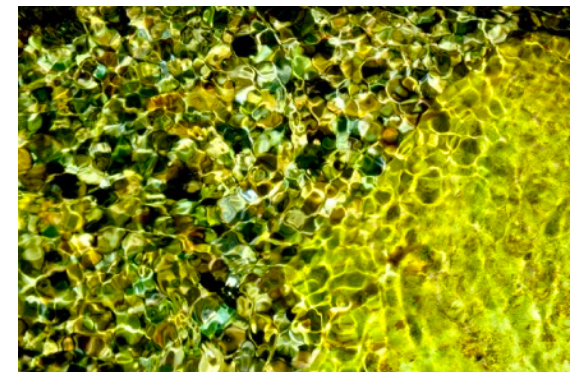
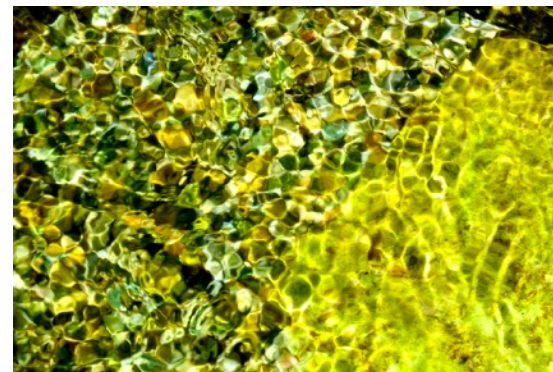
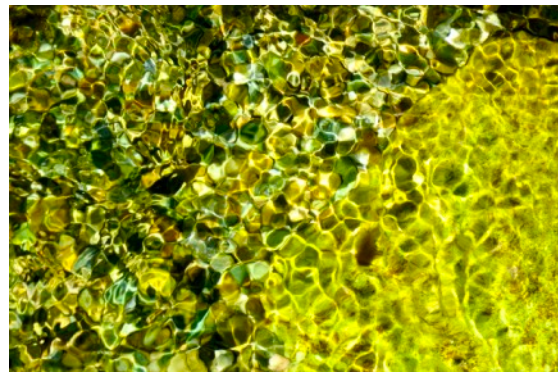
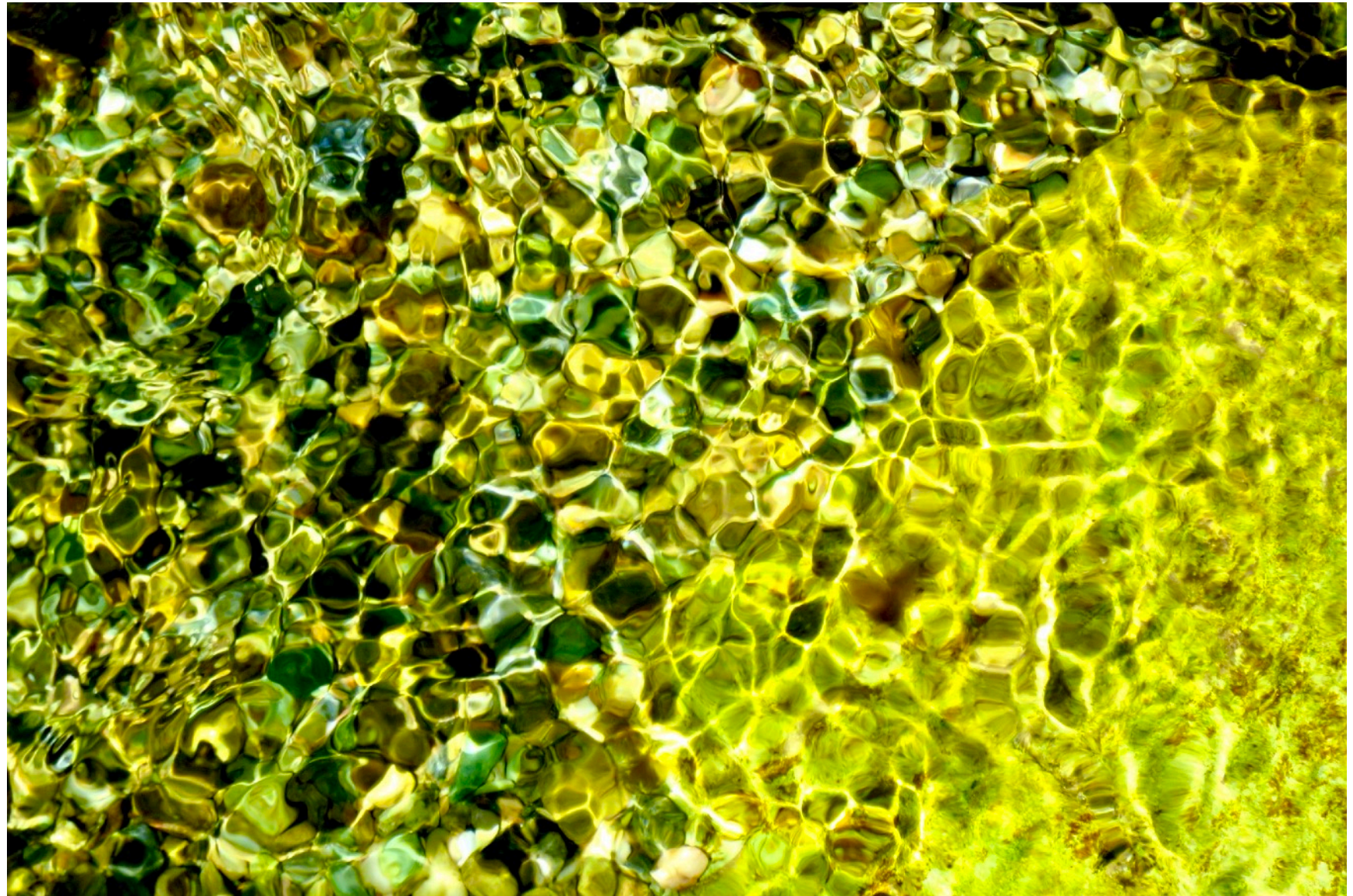
使うことで
使われ

使われることで

ひとは
ひとを
なくしてゆく

使いながらも
使われず

ともに
あたらしい世界を
作れますように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

あなたを
好きなのは
あなたが
あなただから
それ以外には
なにもない

あなたは
あなたのままの
あなたがいい

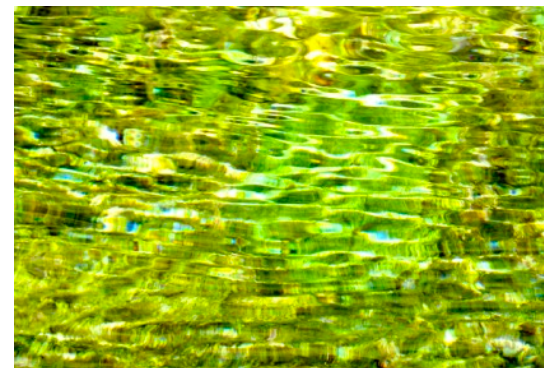
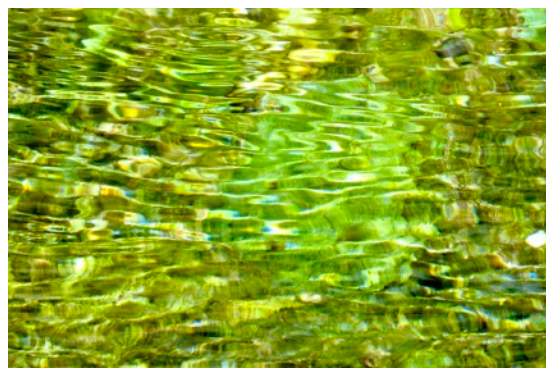
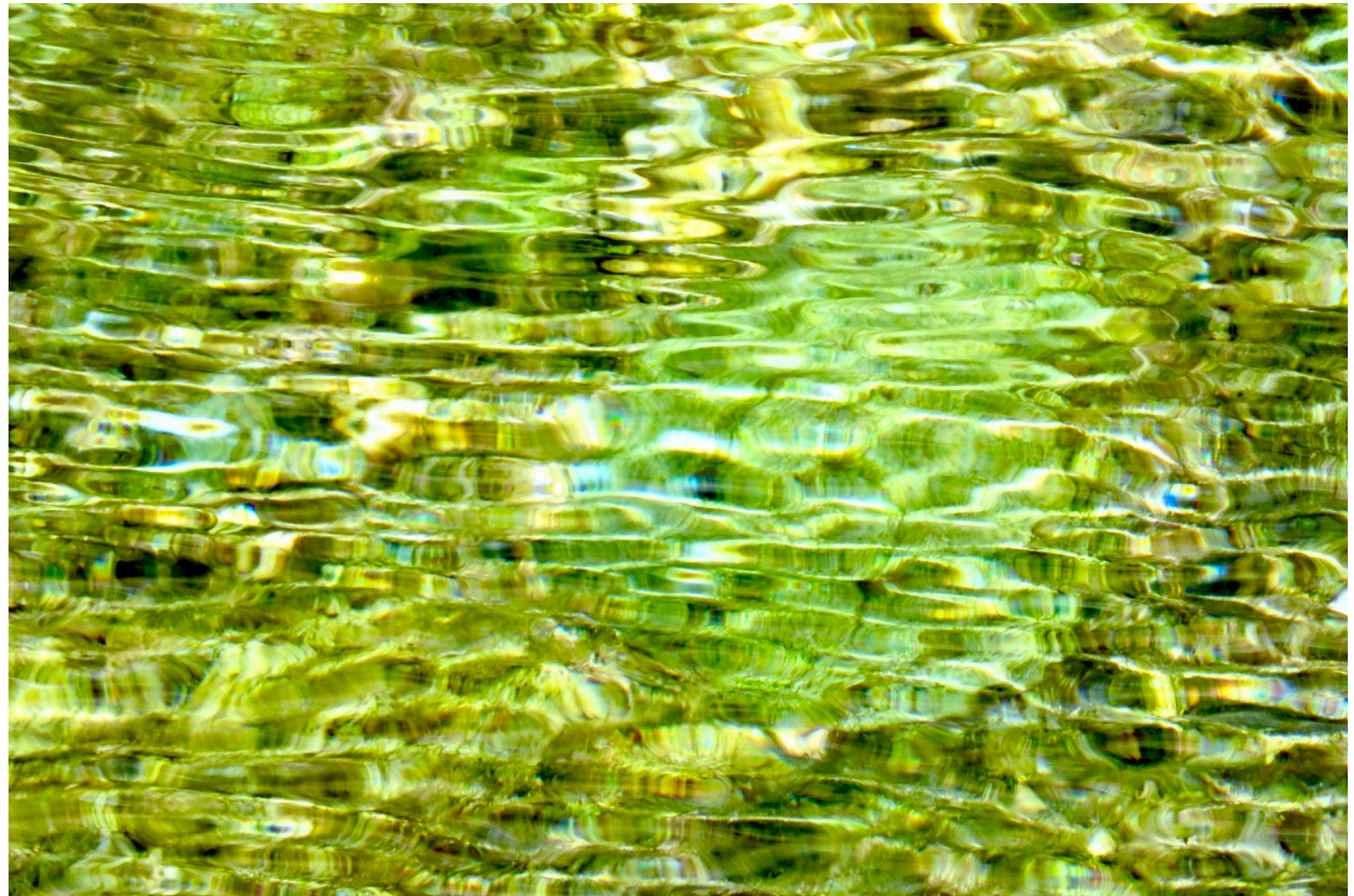
たとえ
あなたが
変わっても
それも
あなたであることに
変わりはなく

あなたの
代わりに
あなたはいないから

あなたを
好きなのは
わたしが
わたしだから
それ以外には
なにもない

たとえ
わたしが
変わっても
わたしが
わたしであることに
変わりはなく

わたしの
代わりに
わたしはいないから



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

世界は
世界からだけでは
変わらない

世界は
私とともに
変わる

私は
私からだけでは
変わらない

私は
世界とともに
変わる

世界に悪があり
悪の変容が
求められるとき

私もまた
悪とともに
変容しなければならない

悪を問い
それを明らかにすることで
そこから新たな善が
生み出されるように



＊高知県仁淀川町上久喜にて

☆photopos-3499 2024.4.7

ことばから
からだか
はなれと

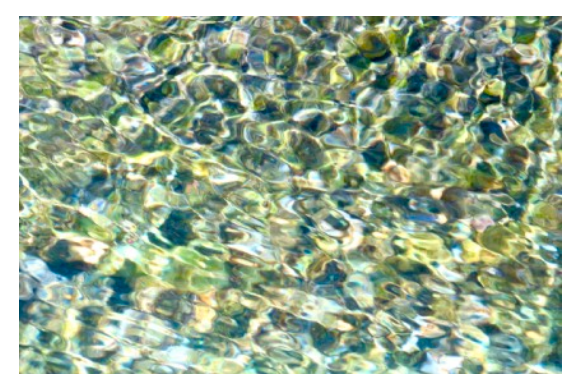
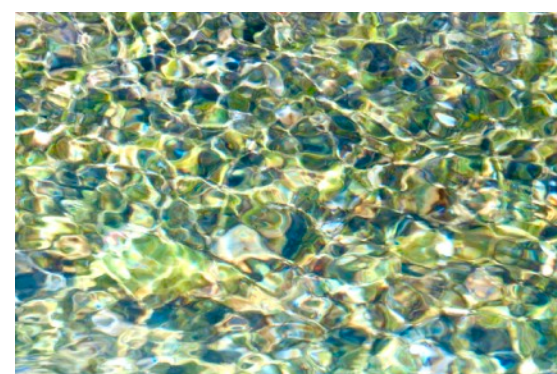
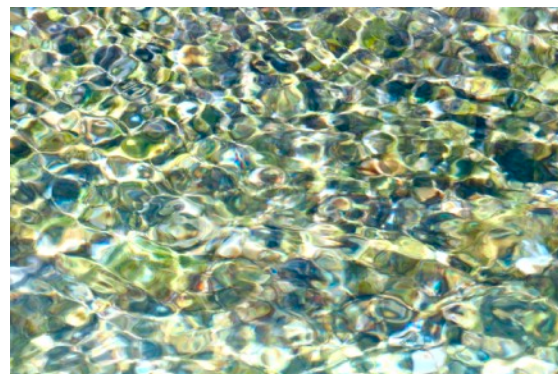
ことばは
からっぽになり

からだから
ことばが
はなれと

からだは
ゆくえしれずになるから

ことばと
からだ
てをとりあって

ともに
すすんで
ゆけますように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて

じぶんが
わからなくなるのは
じぶんで
歩かないでいるからだ

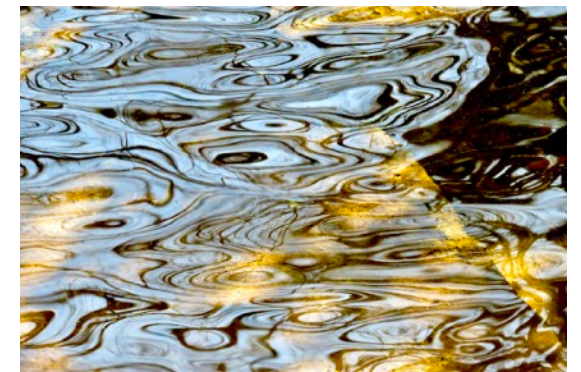
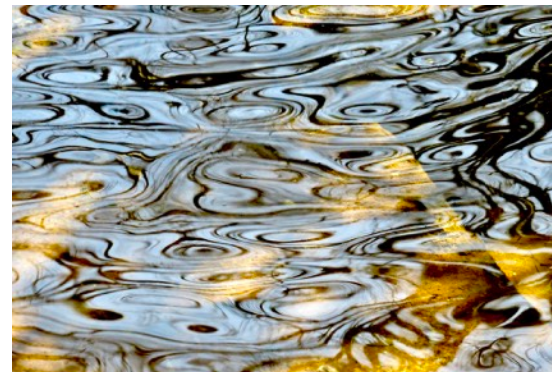
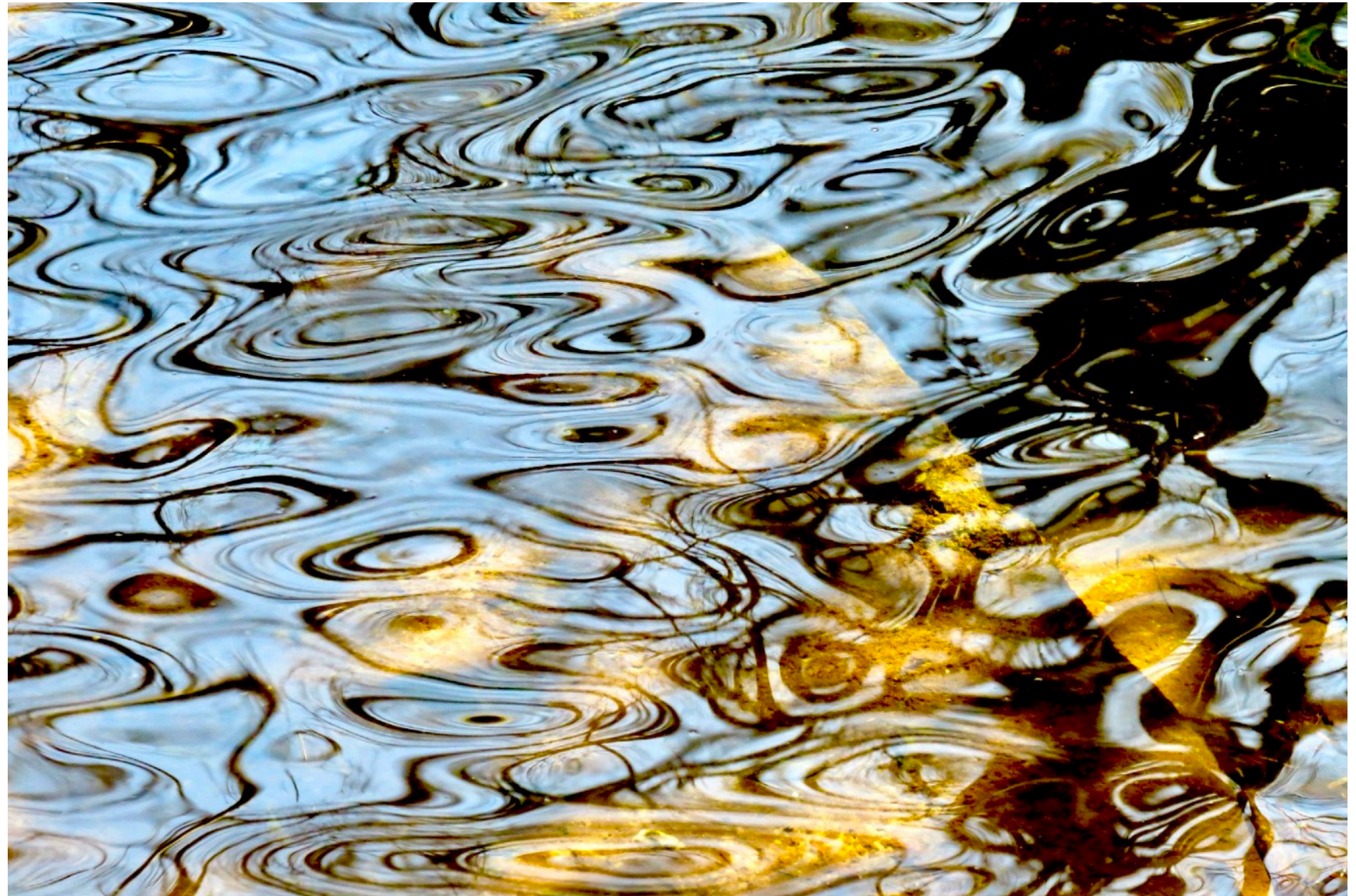
速すぎてもいけない
遅すぎてもいけない

じぶんの歩幅
じぶんの速さで歩く

ひとに合わせ
機械に合わせていくと
じぶんを見失い

置き去りにされた
じぶんの呼び声さえ
きこえなくなってしまう

どこまでも自由に
じぶんの足元を見ながら
歩いてゆけますように



＊愛媛県久万高原町・古岩屋にて